

Newsletter

Vol.28 2015.12.1

日本養護教諭養成大学協議会

日本養護教諭養成大学協議会

ニューズレターVol.28

会長 荒木田美香子 (国際医療福祉大学)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会副会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	10周年記念行事について・・・・・・・・・・・・・・・・	5
2015年度総会を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・	2	協議会活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2	退任理事より・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
養成教育フォーラム・セミナーの報告・・・・・・・・	3	事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・	6
各種委員会報告 養成大学の展望・・・・・・・・	4	編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6



副会長挨拶

副会長
三村由香里
(岡山大学)

荒木田美香子先生を会長とする今年度からの新体制において、総務担当の副会長を務めさせていただくことになりました。3月の引き継ぎの委員会からあつという間に半年が過ぎたと言うのが正直なところですが、この間、本協議会では総会において10周年記念行事を開催し、歴代の会長、副会長から設立当初のご苦労、本協議会および養護教諭に対する想いや期待についてお話いただきました。会員のみなさまからは「とても良かった」との感想をたくさんいただきました。私自身も養成に携わる一人として責任の重さをあらためて感じる機会となりました。

一方、教育行政においては、教育改革の方向性として、教育再生実行会議の提言や中央教育審議会答申等が次々と出され、教育を取り巻く環境、養護教諭が置かれている状況がめまぐるしく変化してきています。このような状況において、養護教諭はますます専門性を活かした役割を果たして行く必要があると同時に、チームとしての学校の中で、その役割(存在感)を明確に示していくことが重要ではないかと考えます。そのためには、養護教諭の実践をこれまで以上に理論化し、実践に裏付けられた理論を養成教育の中で教授することで、養護教諭全体の資質向上につなげる必要があると思います。本協議会においては、設立当初からそのための委員会を組織し、継続して検討を行って参りました。それぞれの委員会での検討をもとに、その成果を会員校の先生方のご賛同をいただきながら積み重ねるこ

とによって、養成教育の充実に寄与できるようにしていきたいと考えています。

本協議会の目的は「養護教諭養成の進展に関わる高等教育機関の使命達成に貢献すること」です。多様な養護教諭養成の中で、必要な資質能力を担保するためには、教育職員免許法における規定が重要となってきます。このほど出された「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」に関連する資料での免許法の見直しのイメージでは「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の統合や、インターンシップの単位化など、抜本的な改訂が予想されるものです。この改正のねらいは教職課程の質の保証・向上であり、まさしく本協議会がこれまで取組んできたことにつながるものであります。養護教諭における免許法の改正も近く行われるであろう状況の中で、これまで本会が積み重ねてきたものを振り返り、よりよい養護教諭養成につなげることができるよう、会員校の先生方と協力しながら取組んで行きたいと思っております。

本協議会の次の10年に向けて、一步一步着実に進んでいけるように努力して参りたいと思っております。ご指導やご助言、ご支援いただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【総会における理事の規程に関するご意見に対して】

総会において、理事の人数等の規程が会則の中で不明瞭であることのご指摘があり、役員会で検討致しました。本協議会には会則および役員会規程があり、会則では目的・事業等の全般的な事を規程しており、その中に「役員」を置く事を定めております。その役員については、下位規程である役員会規程で詳細を定めております。会則に理事の人数等を詳細に示すことはしておりませんが、上位規程である会則の中の事項を下位規程で定められているとご理解いただけましたらと思います。

2015年度 総会報告

日本養護教諭養成大学協議会 2015年度総会を終えて～学校に変化を求める 文部科学行政と養護教諭養成のあり方 会長 荒木田美香子(国際医療福祉大学)

2015年9月4日に、97大学・短期大学のご参加を得まして総会を終えることができました。総会では、活発なご質問やご意見をいただきまして予定時間を超えてしまいました。会員校のご意見をいただきましたことに感謝しております。総会においてディスカッションすることは本来の目的であり、皆様のご期待に役員会としての責任を感じております。

文部科学省が「チーム学校」という概念を打ち出したことを受けて、文部科学省初等中等教育局児童生徒課と横浜市教育委員会よりソーシャルスクールワーカーに関する行政的な考え方と実践例をお話し頂きました。お話を聞いて、「養護教諭はこれまでもこの役割を果たしてきた」という思いを強く感じました。養護教諭は学校において保健主事ばかりでなく、子どもと家族のフロントラインの相談者としてカウンセラーやソーシャルワーカー等のいくつかの役割を果たしてきたということだと思います。これからも、子どもと家族の身近な存在であるという強みを活かして他の専門職を理解した上で活用していくことが必要なのだと思います。加えて、養護教諭が何を果たしてきたか、何が出来るのか、養護教諭が他の専門職と協働することにより、どのように効果を出せるのかといった観点で、養護教諭の役割を社会や文部科学省に出していくことも必要だと、発信力の必要を痛感いたしました。

さて、総会時にも「これからの学校教育をになう教員の資質能力の向上」のブリックコメントを作成するにあたり、33会員校よりご意見をいただき、文部科学省に提出いたしました。その後、中央教育審議会教員養成部会においては上記

の答申素案に加えて、幼・小・中・高の教員養成課程の見直し案が出されております。しかしながら、養護教諭に関しましては、10月15日の段階では変更案が提示されておられません。各大学がそれぞれの強みを出しつつ、かつ養護教諭の質の担保ができるような方向性での見直しが必要であり、本会としても、会員校のご意見を伺いながら文部科学省などへの要望を行って行きたいと考えております。



総会の様子

- 1 開会：三村由香里副会長より、開会が宣言された。
(97大学の出席と14大学の委任状)
- 2 会長挨拶：荒木田美香子会長から、本協議会は10周年であり、岐阜で学校看護婦が置かれてから110年目にあたる今年度において、課せられている課題は地域社会、子どもの安全と健康を守る専門職である養護教諭を信頼関係の下、会員の皆様からさまざまな意見をいただきながら、責任もって育てるために養成大学をサポートしていきたいと挨拶があった。
- 3 議長選出：小林央美（弘前大学）、奥田紀久子（徳島大学）が選出された。
- 4 議題 【報告事項】
議題1 2014年度事業報告および2015年中間報告
荒木田美香子会長より、2014年度事業報告および2015年中間報告がなされ、承認された。
議題2 2015年度事業（後期）予定
荒木田美香子会長より、2015年度事業（後期）予定について報告があり、承認された。

【審議事項】

- 議題1 2014年度決算報告
津島ひろ江理事より、2014年度決算報告がなされた。
- 議題2 2014年度監査報告
大嶺智子監事、河田史宝監事より、2014年度会計が適切であったことが報告され、決算報告および監査報告が承認された。
- 議題3 2016年度事業計画（案）
荒木田美香子会長より、2016年度事業計画（案）が提案され、承認された。
- 議題4 2016年度予算（案）
穴戸州美理事より、2016年度予算（案）が提案され、承認された。
- 議題5 理事の解任・補充について
三村由香里副会長より、会則等の解釈による理事補充について会則の改正の説明がなされ、一身上の都合により岡田加奈子会長の解任が報告された。理事の補充は、大川尚子（関西福祉科学大学）が提案され、承認された。年度途中の理事の解任・補充については運用で対応することとし、役員会の専決事項とすることが賛成多数により承認された。

議題6 監事の提案と承認

- 荒木田美香子会長から、幹事として、大嶺智子（杏林大学）、竹鼻ゆかり（東京学芸大学）が推薦され、賛成多数により監事就任が承認された。
- 5 議長解任：全議題が終了し、議長が解任された。
 - 6 新理事紹介：新理事の紹介および櫻田淳副会長より挨拶があった。
 - 7 閉会：三村由香里副会長より閉会が宣言され総会を終了した。
(教育課程・養成制度検討委員会)

2015年度 養成教育フォーラムの報告

2015年度 養成教育セミナーの報告

「スクールソーシャルワーカー（以下SSW）の活用と養護教諭養成に期待すること」として、文部科学省初等中等教育局 児童生徒課課長補佐 齊藤大輔氏、横浜市教育委員会南部学校教育事務所SSW 岡安朋子氏のご講演を拝聴しました。

齊藤大輔氏より、SSWを取り巻く状況として、生徒指導上の諸問題を6つに分類し、①いじめ、②自殺、③暴力行為、④不登校、⑤子どもの貧困、⑥児童虐待について説明していただき、次に、SSWが行う諸問題への対応について、文部科学省の通知を中心にお話いただきました。



齊藤大輔先生

岡安朋子氏には、SSWの歴史や業務についてお話していただきました。スクールカウンセラーは、児童生徒の心の健康問題に注目し、校内連携を中心に、問題解決にあたるが、SSWは、児童生徒を取り巻く環境に注目し校外を繋げるネットワークづくりを行うと違いをご説明いただき、横浜市における専任教諭とSSWによるチームアプローチの事例をお話いただきました。

養護教諭の役割として、問題の発見（早期発見、インテーク、カウンセリング機能）、情報収集、家庭への対応（環境への働きかけ・介入）、他の教職員との連携、チームアプローチがあり、問題を見つける最初のキーパーソンとなり、養護教諭としての専門的な役割を生かして、教職員や外部機関の人も含め、誰が何をするのか明確にした連携＝“つなぐ”ことを期待しますとお話いただきました。



岡安朋子先生

また、教職員が、スクールソーシャルワークの視点を持つと「問題行動を起こす（教師にとって）困った子」が「（本人が）困って問題行動を起こしている子」というふうに見え方に変化が起き、その結果、教職員の支援の仕方や子どもとの関係性に変化が起きるともご提言いただきました。

養護教諭には他職種との連携を行い、コーディネート能力を発揮することが期待されています。他職種との連携・協働のスタートは、まず自分自身の職務をよく理解すること、そして他職種の得意とすることや職務をよく理解することから始まります。SSWは不登校や虐待、非行などこれまで学校が苦慮しながら対応してきたことへのサポートをしてくれる存在であると考え、今後、文部科学省がいう「チーム学校」の中で一緒に連携・協働していくことの重要性を実感しました。

(教育課程・養成制度検討委員会)

2015年度養成教育セミナーを9月3日（木）13:00～16:30に開催しました。今年度の企画担当は、FD委員会が担当し、「養護教諭養成におけるアクティブ・ラーニングの充実」をテーマとして、122名の会員の皆様にご参加をいただき、以下のように実施いたしました。

第一部は、「学生に深い学びを引き起こすアクティブ・ラーニングとは」と題して、国立大学法人長崎大学・大学教育イノベーションセンター教授でおられる山地弘起氏にご講演をいただきました。山地先生は、アクティブ・ラーニングの背景、意義と諸形態、山地先生ご自身が実践されておられるアクティブ・ラーニングの授業の実際、及び課題について親しみやすく話されました。講演後には、主に効果的なグループの形態や人数等についての質疑応答がなされました。



山地弘起先生

第二部は、「養護教諭養成教育におけるアクティブ・ラーニングの現状と課題」を協議内容とし、10グループの分科会による協議やグループ内での協議内容を全体会で発表していただきました。

全体会では、分科会での各大学でのアクティブ・ラーニングや、授業の工夫等の積極的な取り組みについて多くの実践例が紹介されました。

発表後、山地先生から、演習とアクティブ・ラーニングとの違いや、授業での演習の他、予習課題、復習課題、総合レポート等を活用することによって、学生の能動的学修つまりアクティブ・ラーニングを仕掛けていくこと、また学生同士のグループ内評価を含めた評価の方法を工夫すること等について助言をいただきました。

実施後のアンケートでは、本セミナーが「有意義である」という回答を98.5%いただき、本年度の内容が会員皆様のニーズに合っていたことが確認されました。しかし、分科会が短時間すぎる、グループ人数が多い、協議しにくい会場があった等、今後の改善点も明らかとなりました。来年度に向けて十分な検討をさせていただきたいと思っております。



講演会後のグループワーク

(FD検討委員会)

各種委員会報告

「教育課程（カリキュラム）検討委員会」
「養成制度検討委員会」活動方針・計画

委員長 大川尚子（関西福祉科学大学）
三村由香里（岡山大学）

これまで、教育課程（カリキュラム）検討委員会と養成制度検討委員会が、別々に活動してきました。今期からは、相互に関連する部分が多いことから、2つの委員会をあわせて活動し、今後の方向性を検討することを総会で承認していただきました。

養護教諭養成の資質向上に大きく影響する教員免許法の課題について、3年間かけて、養護教諭養成カリキュラムを中心に検討していきたいと考えております。昨年度の総会では、3科目について提示しております。この議論を踏まえ、今後は、子どもの実態や現状に合わせた学修内容について、教育行政の動向を見据えながら12人のメンバーが中心となって検討していきます。

会員校の先生方、現場の養護教諭の先生方のご意見をうかがいながら進めていきたいと考えております。忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。

第1回検討委員会は9月4日に実施しました。第2回検討委員会は11月15日（土）に開催する予定です。

「FD検討委員会」活動方針・計画

委員長 中下富子（埼玉大学）
遠藤伸子（女子栄養大学）

FD検討委員会は、2015年～2017年の3年間、養護教諭養成教育における質的転換への取り組みとして、アクティブ・ラーニングの充実を図ることをテーマといたしました。活動方針として、アクティブ・ラーニングに基づいたシラバスや授業の計画、実施、評価、改善について、教育職員免許法「養護に関する科目」を中心に検討していきたいと考えております。今年度は、アクティブ・ラーニングについて相互に理解の深化を図るために、養成教育セミナーで講演会を開催するとともに、分科会、全体会で、アクティブ・ラーニングについて情報交換をしていただきました。来年度の提案・協議につきまして、FD委員会の委員一丸となって、準備をさせていただきます。

養成大学の展望 大学紹介 北から南

養成元年からの10年を振り返る
東北福祉大学 総合福祉学部

内藤裕子

本学の総合福祉学部福祉心理学科に養護教諭の養成が認可されてから10年目になります。現在は50人の定員枠に毎年70人ほどの免許取得希望者が入学してきます。心理学の学びを土台とし心身両面に対応できる養護教諭を育てるために、養護教諭と臨床心理士の実務経験をもつ私が養成を担当することになったのですが、最初につかかった問題は学生が抱く「養護教諭の仕事＝心のケア」という偏ったイメージでした。そこで、2年次から始まる「養護概説」と「養護活動論」では「養護とは何か」や養護教諭の仕事と専門性について徹底して学ぶ授業構成とし、演習においても学校救急処置や保健教育の分野に力を入れてきました。しかし、5年ほどして心強いスタッフが加わったことを機に私自身にも余裕が生まれ、学科の強みを生かすような教育に手を広げることができるようになりました。現在では「健康相談」において臨床心理学や発達心理学を生かして事例を見立てる学習を行い、ロールプレイを通して養護教諭としての対応を学ぶ演習に取り組んでいます。

本学の養成において特徴的な点は、心理学を生かすことの他にあげるとすれば「交流学习」を取り入れてきた点でしょうか。「養護実習の事前事後指導」では3年生と4年生の縦割り活動を行い実習での学びを共有する機会があります。また、4年次の演習における実践研究発表会では多数の後輩たちが4年生の学びの成果に触れモチベーションを高めています。

4年次の教職実践演習においては、看護学部で養成をしている他大学の先生と学生にお越しいただき、「養護原理」について考える授業や養護実習の経験について情報交換をする機会をいただいています。その中で学生たちは「学部が違って実習で戸惑う経験は同じである」ことに気づいたり、自分の「強み」を発見することができたようでした。



10周年記念行事の報告

本会は2005年10月15日設立してから10周年を迎えました。10周年記念行事として歴代会長、副会長をお招きしてご挨拶いただきました。高橋香代先生は2・3期会長、鎌田尚子先生は1・2期副会長、大原榮子先生は4期副会長としてご尽力いただきました。



高橋香代先生

【高橋先生】本会の設立は、当時茨城大学の太谷尚子先生、当時女子栄養大学の鎌田尚子先生、当時吉備国際大学の中桐佐智子先生が発起人となってくださいました。第1回総会は、2005年11月26日学士会館で開催しました。設立時は、大学54、短大17の71大学でした。

設立時より教育課程検討委員会と養成制度検討委員会を設けて、養成大学の課題を検討してきています。第2回総会から養成教育ワークショップを設けて教員の研鑽の場にしてきています。養成大学が率直な意見を交わし研鑽をつんで、良い養護教諭を養成していただきたい。

【大原先生】現場の教員経験を経て大学の教員になった立場から、今後大学がどのような養護教諭を育て、現場に送り出していきたいのかという理念と、大学の特徴を活かしたカリキュラムの工夫が、これまで以上に問われてきます。そのためにも、本会で教員間のネットワークをつくり、力を合わせて養護教諭養成の展望を切り開いていただきたい。



大原榮子先生

【鎌田先生】開設当時大谷先生と、アカデミックな学問作りを目指して設立しました。10周年を迎え、これから先の10年が養護教諭の存在を左右する大事な時期です。110年の養護教諭の歴史を踏まえ、養護教諭の理念を忘れないで、プロフェッショナルな養護学と学校保健学の学問作り、養成のための研究指導を願っています。



鎌田尚子先生

荒木田先生より、今後10周年先を見据えて会員相互の交流を深めて進んでいきたい。という言葉で閉会しました。(10周年記念誌へ掲載予定)



(櫻田淳)

協議会活動報告

【2015年度第3回役員会】

日時：平成27年7月12日（日）11:00～16:00

場所：高地県立大学法人サテライトキャンパス

出席者：荒木田、池添、遠藤、大川、河田、櫻田、宍戸、津島、中下、三村

議事：主な審議事項は、各種委員会委員長より提案された2015年度の委員会構成や運営方針について、会計担当理事より委員会活動に係る予算についての提案があり協議を行った。また、2015年度の総会や教育セミナー及び教育フォーラムのテーマ及び講師の選定・運営につき各担当理事からの提案を受け協議した。その結果、教育セミナーは、「養護教諭養成教育におけるアクティブ・ラーニングの充実」と題し、長崎大学の山地弘起先生の講演に続き参加者による分科会を行うことが承認された。また、養成教育フォーラムは、「これからのスクールソーシャルワーカーの活用と養護教諭養成に期待すること」と題し、文部科学省初等中等教育局児童生徒課課長補佐 斉藤大輔氏に、「スクールソーシャルワーカーの現状」について、横浜市教育委員会岡安朋子氏に講演を依頼することになった。また、10周年記念行事の内容と運営について協議した結果、歴代の会長・副会長より今日までの協議会の歴史を踏まえて、今後の課題や展望等についてご挨拶を戴くことになった。

【2015年度第4回役員会】

日時：平成27年9月3日（木）10:00～11:00

場所：きゅりあん 6階会議室

出席：荒木田、池添、遠藤、大川、河田、櫻田、宍戸、三村、津島、中下

議事：主な審議事項は、総会・教育セミナー、教育養成フォーラム等の役割分担と運営についての協議並びに最終確認を行った。

【2015年度第5回役員会】

日時：平成27年9月4日（金）16:15～17:00

場所：きゅりあん 6階会議室

出席：池添、遠藤、大川、河田、櫻田、宍戸、三村、津島、中下

議事：総会や教育セミナー、養成教育フォーラムを実施した結果について担当理事やアンケートからのご意見を基に次年度の課題について協議を行った。

(庶務：遠藤伸子)

2014年度理事を終えて

「感謝」

名古屋学芸大学短期大学部

大原 榮子

2015年度の総会も無事に終了し、今はほっとしています。理事として10年間、本当にお世話になりました。特に最後の3年間は、本協議会の副会長として、岡田会長の下、荒木田副会長、櫻田事務局担当と共に会務にあたらせていただきました。また委員会においても、カリキュラム検討委員会の長を務めさせていただきました。初めてのことで大変ご迷惑をおかけしましたが、私自身は貴重な経験と人との出会いをさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、この養護教諭養成大学協議会との出会いは、自分自身が養護教諭養成に携わって12年目、丁度本会立ち上げの時でした。短期大学でどのように学生を養成していくといいのか、卒業して現場に出た卒業生たちが困らないようにするためには、どのような教育が必要なのかと考えている時でもありました。今もなお、その課題追究は続いています。本協議会ができたお蔭で、また理事をさせていただいたことで、全国で養成教育に力を注いで見える先生方から貴重な示唆をいただくことができました。養成機関の違いはあるものの、養成にかける思いは、先生方一人一人とても熱いものをもっておられ、大変刺激を受けました。

カリキュラム検討委員会では、丁度免許改正への動きを見据えての活動が始まったことも重なり、力量ある委員の方々と共に、積極的な委員会活動を展開することができました。ここでの委員の方々との熱心な話し合いは貴重な経験となりました。

また、ニューズレターの第1号から企画をさせていただいたことから、全国の先生方に、親しみをもって読んでいただくニューズレターを心がけ制作してきました。そのニューズレターも本号で28号となりました。掲載する内容やレイアウトを検討したり、季節にあったカットを挿入したりするなど、楽しみながら制作させていただきました。昼間は、大学の仕事で連絡がつかないまま忙しくしていましたが、完成間近になると櫻田先生と常に夜中の電話とメールで最後の詰めをしていたことを懐かしく思い出します。

ふり返ると、理事としての期間、どの仕事も決して楽なものではありませんでしたが、全国の養護教諭養成という同じ仕事に夢をかけている会員校の先生方との出会いは、本当に勇気をいただけるものでした。感謝の気持ちでいっぱいです。

これからは会員校の一人として、会の発展を祈願すると共に、積極的な参加をしていきたいと思っております。

事務局からのお知らせ

皆様のご協力のお陰によりまして、2015年度総会及びフォーラム、セミナーを滞りなく終えることができました。心より感謝申し上げます。

懇親会におきましても約75名のご参加をいただき、会員校の交流を図ることができました。

2016年度は、9月1日（木）～2日（金）に、今年度と同じく「きゅうりあん」を会場として、総会及びフォーラム、セミナーを開催する計画にしております。予定に入れておいてくださいますようお願い致します。

さて、文部科学省より本会に「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の意見を求められた折にも、会員校から貴重なご意見をいただくことができました。御礼申し上げます。

今後も様々な変化に伴い、本会に意見を求められることが予想されます。その際には、事務局からの連絡や情報提供をスムーズにお届けしたいと思います。大学の連絡先や担当者の変更の場合は、早めに事務局へお知らせください。

（事務局：河田史宝 櫻田淳）

会計よりお願い

2015年度は会員校も124校に増加しうれしく思っています。また、会費もほぼすべての大学から納入していただきありがとうございました。

一方で、役員の変更により理事の役割変更などでそれに伴う出費もあり厳しい運用を迫られそうです。赤字を出さないように切り詰められるところは切り詰めてと思っています。

（会計：宍戸洲美）

編集後記

教員の資質能力の高度化に伴い、養護教諭の養成・採用・研修について改革が求められている中、養成大学においても、大きな変革の時期を迎えていると感じます。そのような変革の時に開催された今年の養成フォーラム、養成教育セミナーでは、多くのご参加をいただき、共に教育のあり方を振り返り、学びを深める貴重な機会となったと思います。今後も皆様の声をいただきながら、養護教諭養成における質の向上に努めていきたいと思っております。来年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

（池添志乃・櫻田淳・荒木田美香子）

【事務局】金沢大学人間社会研究域学校教育系
河田 史宝

TEL&FAX : 076-234-4106 (事務局)

Mail : yogojimu@j-yogo.jp